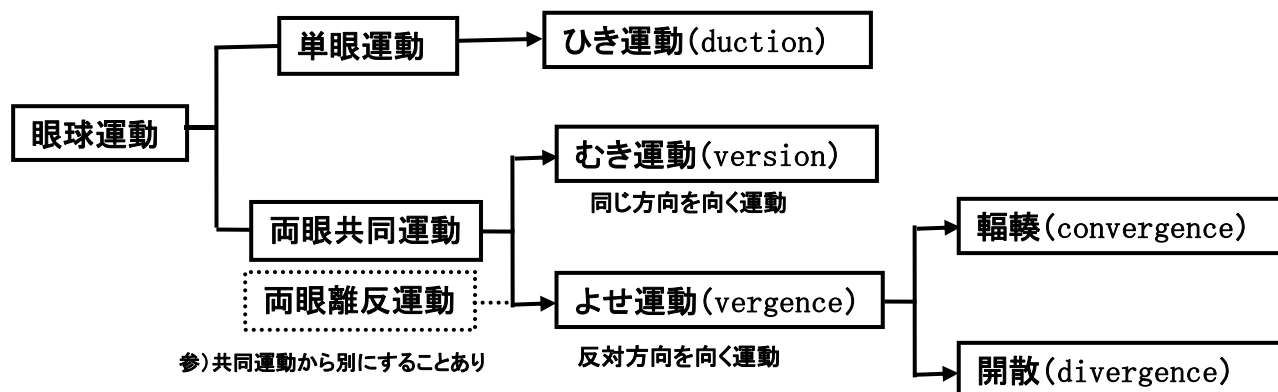


## 眼球運動の種類

### 眼球運動の種類



### ひき運動検査

#### 直接観察法

#### ○定性検査

正常範囲 例) 右眼

<p>視標は水平方向 23° の位置から上方に必要な位置まで動かす</p>	<p>角膜下縁が内外眼角を結ぶ線まで</p>	<p>視標は水平方向 51° の位置から上方に必要な位置まで動かす</p>
<p>角膜外縁が外眼角まで</p>	<p>瞳孔中央で固視しているかチェック</p>	<p>瞳孔内縁が上下涙点を結ぶ線まで</p>
<p>視標は水平方向 23° の位置から下方に必要な位置まで動かす</p>	<p>角膜上縁が内外眼角を結ぶ線まで</p>	<p>視標は水平方向 51° の位置から下方に必要な位置まで動かす</p>

## 外眼筋復習

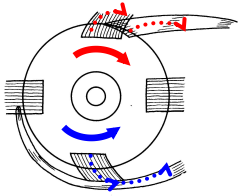
主作用

上直筋・・・上転 内方回旋 内転  
下直筋・・・下転 外方回旋 内転  
上斜筋・・・内方回旋 下転 外転  
下斜筋・・・外方回旋 上転 外転

P. Pから上下に動かすことが、上下直筋の目的だが、筋肉が斜めについているのでこうなる

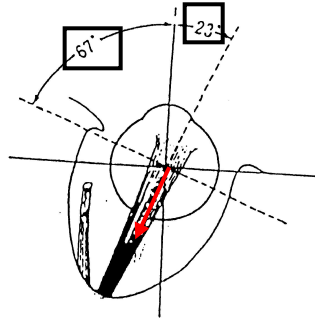
丸尾敏夫:エッセンシャル眼科学第Ⅲ版P61

不二門尚:視能矯正学改定  
第2版P173 図 8-6

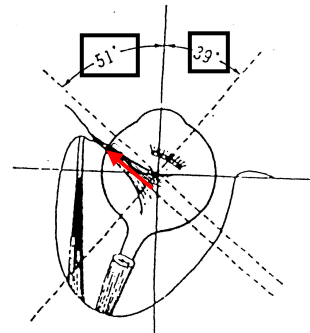


眼筋の回旋の模式図 (右眼を正面から見た図)  
上直筋および上斜筋は内方回旋作用があり、  
下直筋および下斜筋は外方回旋作用がある

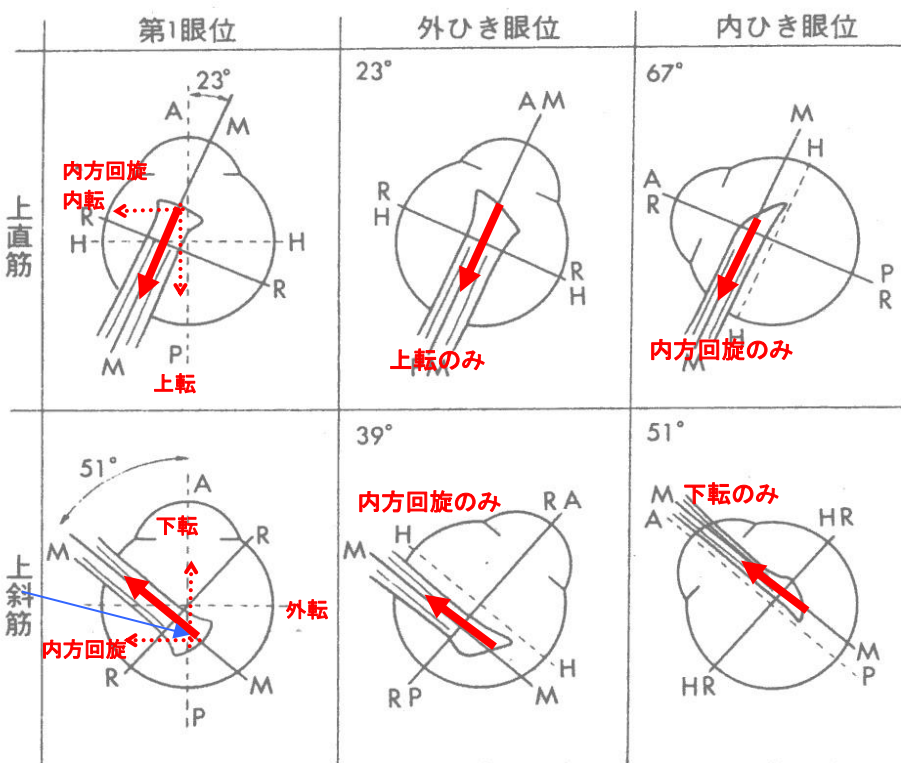
回旋作用(右眼)



上直筋の解剖(右眼)



上斜筋の解剖(右眼)



基点がやや下側  
になるので外転方向  
に引っ張られる

A—P: 前後軸

H—H: 水平軸

R—R: 回転軸

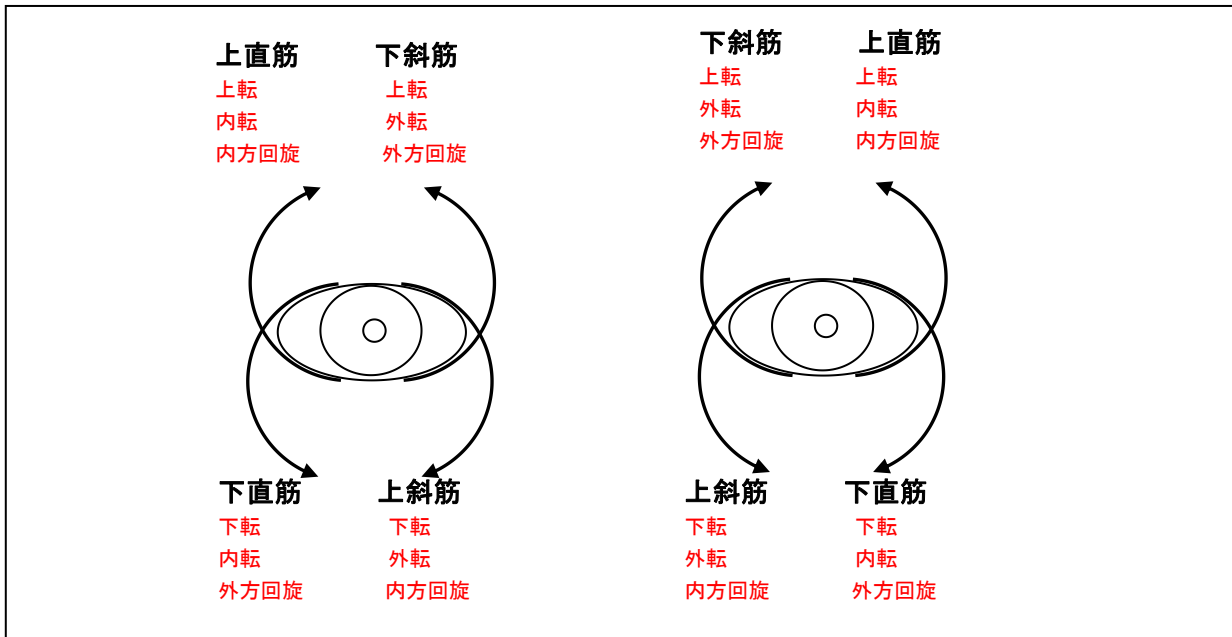
M—M: 筋肉の作用方向

上直筋および上斜筋の眼位による作用の変化  
(右眼を上から見た図)

谷道之:小眼科書P320 図 20-22 に加筆

下に付着している外眼筋の走行は同じなので、それぞれ回旋と上下運動のみ反対となる

## 外眼筋作用の模型図



## 水平直筋の上転位での上転作用

不二門尚:視能矯正学 改訂第2版 P172 図8-4

